

首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター主催 国際シンポジウム 「子どもの貧困と政策：日本とアメリカ」を開催します

首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター（センター長：阿部彩、首都大学東京人文社会学部 人間社会学科教授）は、2019年3月11日（月）、清澄庭園 大正記念館にて、国際シンポジウム「子どもの貧困と政策：日本とアメリカ」を開催します。

日本の子どもの貧困率は13.9%（2015年値）。対して、アメリカは17.5%（2017年値）です。

しかし、長い間「貧困大国」であるアメリカは、子どもの貧困に対する政策が、日本よりも多様で豊富に存在しています。そこで、本シンポジウムでは、日本とアメリカにおける子どもの貧困と政策を、以下2つの観点から比較します。

- ◇ どのような地域に貧困の子どもが多いのか？
- ◇ 貧困の子どもがいる世帯に対して政策は機能しているのか？

上記2点を踏まえつつ、日米の最新の研究成果を共有し、子どもの貧困について、一歩進んだ議論を行います。

なお、報告はすべて英語で行われ、日本語の逐次通訳が入ります。

詳細については、以下をご確認ください。

（子ども・若者貧困研究センターURL）

<https://www.tmu-beyond.tokyo/child-and-adolescent-poverty/>

【開催概要】

- 日 時：2019年3月11日（月）13:45～18:10（受付開始13:30）
- 場 所：清澄庭園 大正記念館（東京都江東区清澄3-3-9）
- 参加費：無料（100名 事前申込制）
- 申込方法：下記申込フォームにてお申し込みください。
申込フォーム：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/d53d043c605431>
- 申込期間：2019年2月7日（木）～3月3日（日）
- 主 催：首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター



【シンポジウム概要】

第1部：（講演及びディスカッション）子どもの貧困と政策

1) 貧困の地理的分布と政策

Scott Allard (University of Washington)、安部 由起子（北海道大学）

2) 低所得の子どものある世帯に対する政策

Jennie Romich (University of Washington)、

Yumiko Aratani (Columbia University)、阿部 彩（首都大学東京）

第2部：（パネルディスカッション）よりよい貧困対策のための政府統計データの活用

（日本語の逐次通訳がつきます。）

■公開シンポジウム

「子どもの貧困と政策：日本とアメリカ」（取材案内）

取材いただける場合は、首都大学東京 子ども・若者貧困研究センターHP の申込フォームより、事前のご登録をお願いいたします。（<https://ssl.form-mailer.jp/fms/d53d043c605431>）

- 取材当日は、13:30 までに会場『受付』で手続きをお済ませください。
- 当日は名刺にて社名の確認をさせていただきます。受付で名刺をご提出ください。複数名でご参加頂く場合は、代表者の方 1 名で結構です。
- 取材時は、各社プレス証（腕章）を着用し（カメラマン等も含む）、係員の指示に従うようお願いいたします。
- 会場では、電源等は準備できません。ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

■会場マップ



- 都営地下鉄 大江戸線「清澄白河駅」 A3 出口より徒歩約 3 分
- 東京メトロ 半蔵門線「清澄白河駅」 A3 出口より徒歩約 3 分
- 都営バス 亀戸駅北口 7 番乗場（門 33） 豊海水産埠頭行き「清澄庭園前」 徒歩約 3 分

【問合せ先・取材申込み先】

首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター

（首都大学東京人文社会学部）

Tel : 042-677-2065（直通）

E-mail : poverty@tmu.ac.jp